



『東北圏だより』

第21回地域バス交通活性化セミナー『新たなモビリティサービスと地域公共交通』

～ MaaS とは何か ～ を開催しました

東北運輸局

東北運輸局では、交通エコロジー・モビリティ財団と共催で平成31年2月20日（水）にパレスへいあん（仙台市青葉区）にて「第21回地域バス交通活性化セミナー『新たなモビリティサービスと地域公共交通』～ MaaS とは何か ～」を開催しました。

今回はMaaS（※）をテーマとしたことから、交通事業者の他にも観光関係者、自治体など110名の方にご参加いただきました。

セミナーの内容としましては、東北運輸局藤澤義人交通政策部長の開会挨拶後、国土交通省蔵持京治交通計画課長より「地域公共交通の改革に向けて～MaaSの実現と競争政策の動き～」と題して、日本におけるMaaSのあり方、政府の検討状況や今後の動きについての講演があり、パネルディスカッションに入りました。

パネルディスカッションでは、福島大学吉田樹准教授からMaaSの基礎的なところから諸外国でのMaaSの状況や東北でのMaaSの現状、郡山観光交通（株）五十嵐諒一氏から国土交通省の採択事業である定額タクシー実証実験について、みちのりホールディングス浅井康太氏から仙台空港～松島・平泉・花巻線で実施しているMaaSの取組事例、先進モビリティ（株）青木啓二氏から自動運転バス技術と実証実験事例、パーク24（株）間地信夫氏からカーシェアリングにかかる様々な取組事例についてそれぞれ紹介いただきました。

その後、福島大学吉田樹准教授にコーディネーターとなっていただき、事例を紹介いただいた方々と国土交通省蔵持課長をパネリストに迎えディスカッションが行われ、また、当日会場にて寄せられた質問に対する応答も行われました。

パネリストの方々からは「東北地方に適したMaaSのあり方を考える」「アプリのプラットフォームだけではなく制度（運営）側のプラットフォームも重要となる」などの発言があり、今後の地域公共交通のあり方を考えるきっかけとなる有意義なセミナーとなりました。

（※）MaaS（マース）… “Mobility as a Service” の略。出発地から目的地までの移動ニーズに対して最適な移動手段をシームレスに一つのアプリで提供するなど、移動を単なる手段としてではなく、利用者にとっての一元的なサービスとして捉える概念



▲東北運輸局藤澤交通政策部長
開会挨拶



▲パネリストの方々



▲会場の様子

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：thr-kou-suishin2@mlit.go.jp